



Japan Society of Internship  
and Work Integrated Learning

# 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

## 2015年度 NO.1

### ■目次

- ・会長再任にあたってのご挨拶
- ・第16回大会（於：近畿大学）を終えて
- ・第17回大会（於：目白大学）開催に向けて
- ・理事会報告
- ・2015年度総会報告
- ・2014年度事業報告及び決算報告
- ・2015年度事業計画及び予算
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・2015年度高良記念研究助成報告
- ・企画研究WG報告
- ・槇本記念賞WG報告
- ・2015・2016年度役員
- ・2015・2016年度委員会構成
- ・支部活動報告  
（北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部）
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報

### 会長再任にあたってのご挨拶



この度2015・2016年度の会長に選任され、広報委員長から「新会長挨拶」というテーマをいただきました。ただ、これまでに3期6年の会長職、その前に2期4年の事務局長職を務めており、いささか新鮮みには欠けますので、表題は少し変えました。せっかくの機会ですので、これまでの私の一学徒としての関わりも含めてこの10年をふり振り返り、今後の10年への展望をお話しさせていただきたいと存じます。

私が学会に参加したのは、三省合意に基づいてインターンシップが政策的に導入され、学会が創設されてしばらく後の2002年のことです。インターンシップとは何か、皆が手探りで実践的な導入に取り組んでいた時代でした。本学会は、設立趣意書にあるように、インターンシップ拡大への志をともにする集まりでした。いろいろな実践やインターンシップのあるべき姿が熱く語られていましたが、学会自体はまだ小さな親睦団体でした。私自身は、インターンシップのコンセプト、特に地域や職業と連携した経験による教育の特色を明らかにし、その実態や効用についても実証的に探究したいと考え、少し遅れて第二世代として学会に加わりました。

それから今日まで、ともに研究を助け、深めたい課題については、一学会員として、いくつか研究年報の学術論文として探究し、課題の提起をしてきました。ある程度皆さんと共有できたのではないかと考えています。学会執行部としては、学術の団体としての確立と組織拡充に努めてきました。研究年報の学術水準を確立すること、日本学術会議協力学術研究団体として認定を受けること、学会の英語名称に work integrated learning (WIL) を加えること、初代会長の高良先生の名を冠した「高良記念研究助成」をスタートさせたこと、また多くの会員の皆様との対話する広報活動を組織的に展開することなどを通して、一定規模の学術の団体としての基盤を確立できたかと思えます。

他方、インターンシップは教育の世界で一定の市民権をえたとはいえ、当初から懸念していたことでもありますが、拡散したコンセプトのままで、現実の方がさらに進み、ごく短期の「インターンシップ」なるものまで現れています。学会における学術活動を通して、今こそ、コンセプトの脱構築が必要であり、インターンシップから職業統合的学習 (WIL) へという課題を、今後の10年に向けて設定していきたいと存じます。これを第一の、学術の課題とします。

第二の課題は、実践と往還する学術という、本学会の固有性の確立です。現場での実践をキャッチし学術交流をするインターフェイスとして、北海道・関東・関西・九州の四支部が形成され、発展してきました。この更なる充実を目指していきたいと存じます。またそのための方法論のひとつとして、秀逸なインターンシップ・プログラムを顕彰するために、槇本先生からのご寄付をもとに「槇本記念賞」を制定し、先の大会で各地域からいくつかのプログラムを選定させていただくことができました。今後も秀でたプログラムや実践の体制から多くを学び、学術を深めていきましょう。

第三に、課題というのも些か妙ですが、学術と実践の往還ができる学会運営のために、上述したような新たな課題を担っていく中核メンバーとして、バイタリティあふれる若い世代にバトンタッチする時期が近づいているかと考えています。役員の定年制なども議論されてきましたが、学会運営での世代交代を促すために理事の再任にかかる会則改訂、規程の追加をしてきました。この任期制が、そうした世代交代のためのよいツールになると期待しています。狭義のインターンシップから地域や産業と連携した WIL 型のプログラム探究への脱構築課題にむけて、いかに若い世代を応援し、また育成していくか、これから2年間の任期をしっかりと務めさせていただきます。皆さん、どうぞご支援よろしくようお願い申し上げます。

(会長 吉本 圭一・九州大学)

## 第16回大会（於：近畿大学）を終えて

2015年9月12日（土）・13日（日）に、近畿大学・東大阪キャンパスにて第16回大会を開催しました。全国からご出席いただいた154名（除く学生アルバイト14名・吹奏楽部21名）の皆様は厚く御礼申し上げます。

関西2府4県では初めての大会ですので、テーマは「地域協働・産学連携 ― 関西のかたち」とし、関西らしさを打ち出しました。まず、初日の基調報告会「関西における大学間連携のかたち」に、関西を代表する3つの大学コンソーシアム（京都、大阪、南大阪地域）のインターンシップ担当者をお招きし、大学間連携の現状を伺いました。関東に次ぐ全国第2位の大学集積地である関西では、経済力が相対的に低下する中、大学間連携が盛んで、インターンシップ面の連携も確認できました。また、中四国の国公立大学を中心にキャリア支援をされている大学生協に「学びと成長事業」を語っていただきました。

続いての総会では、定例議事のあと、「秀逸なインターンシップ」を行う大学を称える「楨本記念賞」（楨本顧問は初代関西支部長）の初の表彰式が開催されました。

総会后、シンポジウム「大阪・兵庫・和歌山での地域連携の実例」を開催しました。大阪は<sup>はびきの</sup>羽曳野市商工会 & 地元企業（地域振興のインターンシップがPBLに発展、愛称「古墳弁当」等を展開）、兵庫は神戸新聞社（地元企業の課題 vs 専門知識のあるゼミのマッチングを図る「Mラボ」を運営）、和歌山は早和果樹園（6次産業企業で、学生の成長にも注力）の担当者をお招きし、取り組み事例や課題を話しあっていただきました。地域創生の観点からも示唆に富む内容でした。

懇親会では、大阪らしい食材（近大卒の養殖魚、東大阪のカレーパン等）を提供したほか、吹奏楽部のビッグバンド演奏を披露しました（同部は翌月開催の全国大会で20回目の金賞受賞）。また、基調報告会やシンポジウムの報告者等との情報交換も活発でした。

2日目の自由研究発表では、4会場21件の意欲的な発表がありました。閉会後の有志によるエクスカッションでは、古墳弁当を試したあと、近くの「司馬遼太郎記念館見学」または奈良市内を巡る「ならまちツアー」を選び、地元を堪能していただきました。

2日間の大会を通じて、関西支部内でみられる多様なインターンシップの展開をお伝えしました。個別大学・個別企業の取り組みにとどまらず、大学間連携（大学コンソーシアム）、大学生協、商工会、地元新聞社など、さまざまなルートでインターンシップが実施されています。皆様のインターンシップ研究のうえで、お役に立てれば幸いです。

最後に、次回、目白大学で開催されます第17回大会の益々のご盛會を心より祈念いたしております。

（第16回大会実行委員長 安孫子 勇一・近畿大学）

\*\*\*\*\*

## 第17回大会（於：目白大学）開催に向けて

2016年度の第17回大会を目白大学／目白大学短期大学部・新宿キャンパスにて開催させていただくことになりました。関東地区での開催は、2012年度の玉川大学（第13回大会）以来となります。このたび、吉本会長、折戸関東支部長からの要請をいただき、学内で検討した結果、お引き受けさせていただくことになりました。

初めて本学にいらっしゃる皆様に、簡単ですが、本学の紹介をさせていただきます。本学の母体である目白学園は、1923（大正12）年、目白台と呼ばれる新宿の高台に、研心学園として創設されました。1994年に目白大学を開校し、現在では、東京都新宿区をはじめとする3つのキャンパスに、大学6学部16学科、短期大学部3学科、大学院7研究科を展開しております。「育てて送り出す」ことを社会的使命として、就業力育成という観点では、「MEJIRO キャリアコンピテンシーの創育―行動する人材育成への挑戦」と題したオリジナルプログラムにより、企業や地域との連携を強化しつつあります。インターンシップに関しては、大学基礎教育科目及び各学科専門教育プログラムとして位置づけており、大企業のみならず、地域の中小企業やベンチャー等にもその研修先が広がっています。また、短期大学部においては、株式会社ナポリアイスクリームとの包括連携協定に基づく新商品開発なども行っています。

大会プログラムの内容については、目下検討中ですが、2020年の東京オリンピックも見据えて、産学金・地域連携を通じたこれからの担い手育成のあり方を問う内容を考えています。これまでの関東支部における研究蓄積を踏まえて、内容の充実を図りたいと考えております。

最後になりますが、本学は、西武新宿線中井駅（高田馬場駅から2駅5分）より徒歩8分程度の場所にあり、アクセスは良好です。「森の学園」と呼ばれるキャンパスは都心にありながらも敷地全体が自然に包まれており、周辺には「放浪記」の林芙美子記念館や、アニメ映画「時をかける少女」のモデルとなった商店街などもあります。ご参加いただいた皆様にご満足頂けるような大会にしたいとスタッフ一同努力してまいります。多くの皆様のお越しを心よりお待ちしております。

（第17回大会実行委員長 牛山 佳菜代・目白大学）

## 理事会報告

2014年度第5回理事会（5月31日 於：札幌国際大学）

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。なお、学生会員のうち卒業後も学生会員のままで会員種別変更をしない会員の存在について出席理事より問題提起があり、今後、学生会員の年会費適用の条件として、学生証の写しの提出を義務付けることで承認された。

(2) 第16回大会について

安孫子大会実行委員長より、資料に基づき、大会プログラムや研究発表の募集について説明があった。

(3) 2015・2016年度理事選挙及び会長選挙について

和田選挙管理委員長より、資料に基づき、会員による理事選挙により新理事候補15名が決定し、会長選挙に移行している最中であるとの進捗が報告された。

(4) 広報委員会

江藤副委員長より、ニュースレター2014年度第2号が発行・発送された旨、報告があった。

(5) 2015年度高良記念研究助成

長尾事務局長より、資料に基づき、「2015年度高良記念研究助成」の募集を会員向けに行った旨、報告があった。また、その審査を行う委員会の体制案について同じく説明があり、原案のとおり了承された。

2015年度第1回理事会(8月18日 於:キャンパスプラザ京都)

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2) 2014年度事業報告(案)について

長尾事務局長より、資料に基づき説明があり、一部文言を加筆のうえ了承された。

(3) 2014年度決算案について

事務局長より、資料に基づき、8月上旬に会計監査が行われたものの、この時点で資料に不備があったため、引き続き事務局にて監査にかかる作業を行うとともに、後日あらためて監査を受けることについて説明があり、了承された。

(4) 2015年度予算案について

事務局長より、資料に基づき説明があり、出席理事から内容について意見があったことから、引き続き事務局として検討することとなった。

(5) 第16回大会について

安孫子大会実行委員長より、資料に基づき、大会に向けての最終準備状況の報告がなされたほか、当初発表のプログラム案から変更が加えられたことについて、事務局長から、経緯の説明が行われた。

(6) 2015・2016年度理事選挙及び会長選挙について

和田選挙管理委員長より、2015・2016年度の理事選挙・会長選挙について、理事選挙は投票総数113通(投票率53.3%)をもって終了したこと、また会長選挙も6月下旬に開票作業を行い終了したことの報告がなされた。

(7) 高良記念研究助成について

事務局長より、高良記念研究助成審査委員会への審査依頼手続きが遅れているとの報告があり、今後の対応を検討した結果、同委員会での審査をすみやかに完了するよう依頼し、その結果報告についての理事会審議については書面回議をもって行うこととなった。

(8) 榎本記念賞について

田中WG委員長より、全理事に同賞選定の審査依頼を

行っていること等、現在の進捗状況が報告された。選定結果については第16回大会総会にて発表のうえ表彰状を授与することが確認された。

2015年度第2回理事会(9月11日 於:近畿大学)

(1) 2014年度決算案について

事務局長より、資料に基づき説明があり、原案どおり了承された。

(2) 総会議題について

事務局長より、総会の議題についての提案があり、原案どおり了承された。

(3) 高良記念助成について

岸本委員長(非理事)の代理として和田委員より、前回理事会後、8月下旬に同委員会にて審査を行った結果、2015年度は該当者なしという審査結果報告が理事会になされ、書面回議の結果、承認されたことが報告された。

(4) 榎本記念賞について

眞鍋WG副委員長より、理事による投票の結果、「最も秀逸な事例」1例と「秀逸な事例」6例を選定することとし、理事会(書面回議)において承認されたことが報告された。

(5) 次期大会校について

吉本会長より、来年の第17回大会は関東支部の目白大学に開催校をお引き受けいただけることになったとの報告があった。

なお、各理事会で行われたそのほかの委員会・WG、支部の報告の詳細につきましては、本NEWS LETTERの委員会・WG・支部の報告記事をご参照願います。

(事務局)

## 2015年度総会報告

2015年度総会が、2015年9月12日(土)近畿大学東大阪キャンパスにおいて開催され、以下の報告・審議が行われました。

(1) 2014年度 事業報告

長尾事務局長より資料に基づき説明があり、承認された。

(2) 2014年度 決算報告および2014年度 監査報告

事務局長より資料に基づき説明があった。その後、沢田監事より監査報告を行い承認された((1)・(2)の詳細は「2014年度事業報告及び決算報告」を参照)。

(3) 2015・2016年度 役員選出について

和田選挙管理委員長より理事選挙及び会長選挙の結果が報告された。この結果に基づき、新理事15名及び新会長として吉本圭一会員が承認された。その後、会長指名の理事、副会長、常任理事、事務局長、顧問、名誉会長についての報告があった。さらに、監事については、稲永由紀会員及び古賀正博会員が推薦され、承認された

(詳細は「2015・2016年度役員について」を参照)。

(4) 2015・2016年度 委員会組織について

吉本新会長より追加資料に基づき報告があった(詳細は「2015・2016年度委員会構成」を参照)。

(5) 2015年度 事業計画

事務局長より資料に基づき、事業の概要について説明があり、承認された。

(6) 2015年度予算について

事務局長より資料に基づき、一般会計予算案、特別会計予算案について説明があり、承認された((5)・(6)の詳細は「2015年度事業計画及び予算」を参照)。

(7) 高良記念研究助成について

2015年度高良記念研究助成審査委員長が欠席のため、牛山委員より、今年度は審査の結果、助成対象は該当者なしとなったことが報告された。

(8) 榎本記念賞について

田中WG委員長より、同賞の選定の趣旨について説明がなされたのち、「最も秀逸な事例」1例、「秀逸な事例」6例が発表され、あわせて表彰式が行われた(詳細は「榎本記念賞WG報告」を参照)。

(9) 第17回大会について

新会長より、次回の全国大会を関東支部内の目白大学で開催することが発表され、大会実行委員長の牛山 佳菜代会員から挨拶があった(詳細は「第17回大会開催に向けて」を参照)。

(事務局)

・第5回理事会 2015年5月31日(札幌国際大学)

5. 各支部活動

(1) 北海道支部

・2014年11月30日 企画研究WG・年報編集委員会・北海道支部共催セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」(北海道大学)

・2015年3月24日 2014年度第1回研究会(札幌国際大学経済センターキャンパス)

・2015年5月31日 2014年度第2回研究会(札幌国際大学)

(2) 関東支部

・2014年10月11日 2014年度第1回研究会(玉川大学)

・2014年2月21日 2014年度第2回研究会(工学院大学)

・2015年6月27日 2014年度第3回研究会(中央大学駿河台記念館)

(3) 関西支部

・2014年8月30日 第9回研究会(京都産業大学むすびわざ館)

(4) 九州支部

・2014年11月29日 第13回研究会(九州大学 箱崎キャンパス)

・2015年3月27日 第14回研究会(福岡商工会議所)

6. その他

(1) 会則の改正

・第10条(役員)

・第11条(役員を選任)

・第3条(役員任期)

(2) 役員選出にかかる関連規定の改正

・旧「会長選挙規定」(現『会長、副会長、常任理事選出規程』)の改正

・「理事選挙規定」の改正

・「会則(役員任期・再任回数)の改定にかかる経過規程」の新設

(3) 2014年度高良記念研究助成の実施

(4) 新たな表彰制度(榎本記念賞)の創設についての検討

(5) 論文作成に向けてのワークショップの開催

・2014年11月30日 企画研究WG・年報編集委員会・北海道支部共催セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」(会場:北海道大学)

(6) 学会後援・協賛事業等

・九州大学国際セ三段階教育における質保証と教育スタッフ一・独・豪の比較考察をもとに(2014年11月15日)後援

・学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 平成26年度文部科学省委託事業成果報告会(2015年2月9日)後援

・京都産業大学「WACE第19回世界大会」(2015年8月19~21日)後援

・大学間連携共同教育推進事業「短期大学士課程の職業・キャリア教育と共同教学IRネットワーク」(代表校:佐賀女子短期大学) 参画 (事務局)

## 2014年度事業報告及び決算報告

「2015年度総会報告」のとおり、2014年度事業報告及び決算報告について、総会にて下記のとおり承認されました。

1. 2014年度事業期間

・2014年7月1日~2015年6月30日

2. 事業の概要

・2014年9月6~7日 第15回大会開催(会場:北九州市立大学)

・2014年11月 News Letter №1 発行

・2014年11月 『インターンシップ研究年報』17号発行

・2015年5月 News Letter №2 発行

3. 総会

・2014年9月6日(北九州市立大学)

4. 理事会

・第1回理事会 2014年8月23日(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

・第2回理事会 2014年9月5日(北九州市立大学)

・第3回理事会 2014年11月28日(九州大学 箱崎キャンパス)

・第4回理事会 2015年2月28日(九州大学 東京オフィス)

## 2015 年度事業計画及び予算

「2015 年度総会報告」のとおり、2015 年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。

### 2015 年度事業計画

#### 1. 2015 年度事業期間

2015 年 7 月 1 日～2016 年 6 月 30 日

#### 2. 事業の概要

(1) 第 16 回大会の開催 (2015 年 9 月 12 日 (土) ～13 日

(日)、近畿大学)

(2) 研究会の開催 (各支部年 2～3 回程度)

(3) 研究年報 18 号の刊行

(4) News Letter の発行 (年 2 回)

(5) 「2015 年度 高良記念研究助成」実施

(6) 「2015 年度 槇本記念賞」の選定・表彰の実施

(7) 会員名簿の作成

(8) 論文作成支援のためのワークショップ等の実施

(9) その他

(事務局)

## 2014(平成26)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書

(2014年7月1日～2015年6月30日)

### 【一般会計】

(単位:円)

支出の部	2014年度予算(a)	2014年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2014年度予算(a)	2014年度決算(b)	予実差異(b-a)
事業費	1,750,000	1,371,176	-378,824	会費収入	2,385,000	2,801,000	416,000
(北海道支部活動費)	150,000	150,000	0	(個人会員)	1,500,000	1,826,000	326,000
(関東支部活動費)	150,000	150,000	0	(学生会員)	65,000	85,000	20,000
(関西支部活動費)	150,000	150,000	0	(法人・団体会員)	820,000	890,000	70,000
(九州支部活動費)	150,000	150,000	0	事業収入	0	0	0
(大会開催費)	300,000	300,000	0	(研究会収入)	0	0	0
(年報作成費)	500,000	301,320	-198,680	(書籍・年報等販売収入)	0	0	0
(記念事業費)	0	0	0	雑収入	300	138,561	138,261
(役員選挙費)	150,000	169,856	19,856	(受取利息)	300	19	-281
(名簿作成費)	200,000	0	-200,000	(その他の収入)	0	0	0
事務管理費	2,000,000	1,050,434	-949,566	(大会開催費余剰金)	0	0	0
(通信費)	200,000	103,330	-96,670	(北海道支部余剰金)	0	92,738	92,738
(HP管理費)	100,000	38,880	-61,120	(関東支部余剰金)	0	1,274	1,274
(その他運営費)	1,700,000	908,224	-791,776	(関西支部余剰金)	0	44,530	44,530
積立金(特別会計へ)	200,000	0	(200000)	(九州支部余剰金)	0	0	0
予備費	4,698,423	0	-4,698,423	前年度繰越金	6,263,123	6,263,123	0
次年度繰越金	0	6,781,074	6,781,074	合計	8,648,423	9,202,684	554,261
合計	8,648,423	9,202,684	554,261				

(当該年度事業のみ)	3,950,000	2,421,610	-1,328,390	(当該年度事業のみ)	2,385,300	2,939,561	554,261
------------	-----------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	---------

### 【特別会計(高良記念研究助成)】

(単位:円)

支出の部	2014年度予算(a)	2014年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2014年度予算(a)	2014年度決算(b)	予実差異(b-a)
2014年度研究助成金	200,000	100,000	-100,000	受取利息	50	92	42
槇本記念賞事業費	100,000	0	-100,000	余剰金	0	0	0
振込手数料	1,000	648	-352	その他	0	60,688	60,688
予備費	445,292	0	-445,292	積立金(一般会計より)	200,000	0	-200,000
次年度繰越金	0	506,374	506,374	前年度繰越金	546,242	546,242	0
合計	746,292	607,022	-139,270	合計	746,292	607,022	-139,270

## 2014(平成26)年度 貸借対照表兼財産目録(2015.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	7,287,448	(負債の部)	
手持現金(鳥取大)	1,737	流動負債	0
預金	7,285,711	固定負債	0
山陰合同銀行(一般会計)	520,185		
山陰合同銀行(特別会計)	506,374	(純資産の部)	
郵便振替口座	6,259,152	剰余金	7,287,448
		(一般会計繰越金)	6,781,074
固定資産	0	(特別会計繰越金)	506,374
資産合計	7,287,448	負債・純資産合計	7,287,448

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2015(平成27)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2015年度予算額	前年度予算額	2014年度実績	2013年度実績	2012年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,385,000	2,385,000	2,801,000	2,383,740	2,399,820	0
	個人会員(10,000円)	1,500,000	1,500,000	1,826,000	1,493,920	1,470,000	0
	学生会員(5,000円)	65,000	65,000	85,000	90,000	70,000	0
	法人・団体会員(20,000円)	820,000	820,000	890,000	799,820	859,820	0
事業収入	小計	0	0	0	0	0	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	小計	300	300	138,561	183,869	324,092	0
	受取利息	300	300	19	98	217	0
	その他の収入	0	0	0	5,010	103,000	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	0	0	0
	北海道支部余剰金	0	0	92,738	44,111	78,141	0
	関東支部余剰金	0	0	1,274	2,018	382	0
	関西支部余剰金	0	0	44,530	47,700	100,000	0
	九州支部余剰金	0	0	0	84,932	42,352	0
当期収入合計(A)		2,385,300	2,385,300	2,939,561	2,567,609	2,723,912	0
前期繰越収支差額		6,781,074	6,263,123	6,263,123	5,492,920	5,068,620	517,951
収入合計(B)		9,166,374	8,648,423	9,202,684	8,060,529	7,792,532	517,951

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2015年度予算額	前年度予算額	2014年度実績	2013年度実績	2012年度実績	予算増減
事業費	小計	1,600,000	1,750,000	1,371,176	1,281,820	1,360,755	-150,000
	北海道支部活動費	150,000	150,000	150,000	100,000	100,000	0
	関東支部活動費	150,000	150,000	150,000	100,000	100,000	0
	関西支部活動費	150,000	150,000	150,000	100,000	100,000	0
	九州支部活動費	150,000	150,000	150,000	100,000	100,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	300,000	600,000	300,000	0
	年報作成費	500,000	500,000	301,320	281,820	426,195	0
	記念事業費	0	0	0	0	0	0
	役員選挙費	0	150,000	169,856	0	103,310	-150,000
	名簿作成費	200,000	200,000	0	0	131,250	0
事務管理費	小計	2,000,000	2,000,000	1,050,434	415,586	438,857	0
	通信費(郵送料等)	200,000	200,000	103,330	156,360	120,322	0
	HP管理費	100,000	100,000	38,880	37,980	37,800	0
	役員・委員等旅費補助	900,000	900,000	400,000	0	0	0
	業務外部委託費	400,000	400,000	86,774	0	0	0
	その他運営費	400,000	400,000	421,450	221,246	280,735	0
当期支出小計		3,600,000	3,750,000	2,421,610	1,797,406	1,799,612	-150,000
特別会計へ	積立金	200,000	200,000	0	100,000	500,000	0
予備費	予備費	5,366,374	4,698,423	0	0	0	667,951
当期支出合計(C)		9,166,374	8,648,423	2,421,610	1,697,406	1,799,612	517,951
当期収支差額(A)-(C)		-6,781,074	-6,263,123	517,951	770,203	924,300	-517,951
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	6,781,074	6,263,123	5,492,920	0

2015(平成27)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2015年度予算額	前年度予算額	2014年度実績	2013年度実績	予算増減
寄付金		0	0	0	0	0
積立金	小計	200,000	200,000	0	100,000	0
	一般会計より	200,000	200,000	0	100,000	0
雑収入	小計	100,050	50	60,780	65	100,000
	受取利息	50	50	92	55	0
	その他の収入	100,000	0	60,688	10	100,000
当期収入合計(A)		300,050	200,050	60,780	100,065	100,000
前期繰越収支差額		506,374	546,242	546,242	647,593	-39,868
収入合計(B)		806,424	746,292	607,022	747,658	60,132

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2015年度予算額	前年度予算額	2014年度実績	2013年度実績	予算増減
特別事業費	小計	300,000	300,000	100,000	200,000	0
	高良記念研究助成事業	200,000	200,000	100,000	200,000	0
	禎本記念賞事業費	100,000	100,000	0	0	0
事務管理費	小計	1,000	1,000	648	1,416	0
	振込手数料	1,000	1,000	648	1,416	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	505,424	445,292	0	0	60,132
当期支出合計(C)		806,424	746,292	100,648	201,416	60,132
当期収支差額(A)-(C)		-506,374	-546,242	-39,868	-101,351	39,868
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	506,374	546,242	0



## 年報編集委員会報告

### 『インターンシップ研究年報』第 18 号について

『インターンシップ研究年報』第 18 号が完成いたしました。本号の「研究論文の部」（「論文」及び「研究ノート」）には 9 本の投稿がありました。編集委員に加えて、近接領域を研究しておられる 9 名の会員にもご協力をいただき、査読をおこないました。その結果、「論文」としての採択はありませんでしたが、2 本を「研究ノート」として採択いたしました。

また、「資料の部」には 1 本の投稿があり、会員の研究・実践に十分資する内容でしたので採択するとともに、「研究論文の部」に投稿があったもののうち、「資料」としての価値が高い 2 本については、投稿者の許可を得て、「資料」として、あわせて 3 本を収録いたしました。

今号は、「研究論文の部」のうち、「論文」としての採択はありませんでした。残念ではありますが、学術誌としての一定のクオリティを確保するための苦渋の決断でした。しかし、これまでにないユニークな視点や方法論を用いた投稿もあり、今後の研究に期待するものが多かったのも事実です。査読結果は、採択・不採択にかかわらず、審査の際に出た様々な意見をすべて投稿者にフィードバックしていますので、不採択になった会員もぜひ再チャレンジしていただきたいと思っております。

### 『インターンシップ研究年報』第 19 号への投稿のお願い

並行して、『インターンシップ研究年報』第 19 号への投稿を募集いたします。本年報では、以下の区分により投稿を募集しておりますので、投稿に当たっては、希望する区分を明記の上、投稿をお願いいたします。

#### (1) 「研究論文」

- ① 「論文」（一定の研究成果をまとめたもの）
- ② 「研究ノート」（「論文」に準ずる研究成果をまとめたもの、もしくは研究の基礎となる情報をまとめたもの）

#### (2) 「資料」（報告・資料等会員のさらなる研究・実践活動に資するもの）

原稿は、電子メールにファイルを添付して下記のアドレスに送信して下さい。

- ・ 締切：2016 年 1 月 20 日（水）（厳守）
- ・ 送信先：日本インターンシップ学会年報編集委員会
- ・ E-mail: [jsi-pec@js-internship.jp](mailto:jsi-pec@js-internship.jp)

なお、年報 19 号の研究論文等投稿規程は、第 18 号巻末及び学会ウェブサイトに掲載しています。「研究論文」「資料」とともに、投稿規程を守っていない場合には、査読・掲載の対象から外すことがあります

ので、投稿規程をしっかりと守って原稿を作成の上、投稿して下さい。

（年報編集委員会委員長 亀野 淳・北海道大学）

## 広報委員会報告

2015 年・2016 年の広報委員会は、委員長・和田佳子、副委員長・牛山佳菜代・見目喜重ほか 5 名の委員が担当いたします。大会・研究会や各支部活動の告知や報告に加え、会員間の交流に資する情報提供に努めてまいります。年 2 回のニュースレター発行、学会ウェブサイトの管理、メルマガの配信等を行ってまいりますので、引き続き、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### メルマガ配信先アドレスの登録について

現在、学会ウェブサイトにて新着情報が掲載されるたびに会員の皆様にはメルマガジン（以下メルマガ）でご案内をしています。新入会員の皆様、また法人会員の皆様で個人アドレスに配信をご希望の方は、送信先アドレスを広報委員会までお知らせください（[jsi.prc@gmail.com](mailto:jsi.prc@gmail.com)）。

### 公募・研究助成関連情報等のウェブ掲載について

本学会に寄せられた教員公募や研究助成に関する情報はウェブサイトに掲載、またはメルマガにて配信しております。

また、支部研究会の開催案内はウェブサイトへの掲載、ならびに会員宛のメルマガ配信のほか、他の高等教育機関等のメルマガへの投稿を通じて発信いたします。最終的な掲載の可否は広報委員会で検討させていただきますが、関連情報の発信を希望される方は、広報委員会にお問い合わせ下さい。

### 学会シンボルマークの使用について

学会シンボルマークの著作権管理は広報委員会が行っております。シンボルマークを使用される際には、広報委員会にご一報ください。使用規定では、「原則として、日本インターンシップ学会主催行事ならびに協賛・後援行事の使用に限る」とになっておりますことをご承知おきください。

（広報委員会委員長 和田 佳子・札幌大谷大学）

## 2015 年度 高良記念研究助成報告

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の進展・普及のため、また会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ

の研究助成を行っています。2015年度（第9回）の研究助成には1件の応募がありましたが、審査委員会の厳正な審査により、残念ながら採択には至りませんでした。

なお、2016年度（第10回）の研究助成応募期間は4月～6月を予定しておりますが、詳細は次号のNEWS LETTERにてご連絡いたします。是非、多くの申請があることを期待しております。

（高良記念研究助成審査委員長 岸本 喜久雄・  
東京工業大学）

## 企画研究WG報告

2015年度における当WGの大きな任務は、2014年度に引き続き、①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策の検討、②本学会の国際的な対応の2点です。

前者については、年報編集委員会との共催により2014年12月に札幌で開催したセミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」と同様の催しを開きたいと考えています。すでに、2012年12月に東京で同様のセミナーを開いておりますので、まだ開催していない地域で開催する方向で考えていきます。

後者については、2015年8月19～21日に京都産業大学で開催されたWACE (the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education) の第19回世界大会を学会として後援しました。WACEとは、インターンシップやWIL (Work Integrated Learning : 職業統合的学習) の国際的組織であり、世界大会は2年に1回開催されています。個人的には初日しか参加できなかったのですが、多くの会員が参加されていたことを確認しました。ご参加いただいた会員に、深く感謝申し上げます。

なお、WACE世界大会の様態については、2015年12月4日夕方、キャンパスプラザ京都で開催予定の関西支部研究会で報告してもらいます。報告者は、関西支部を代表して参加していただいた廣瀬会員（立命館大学）と五十畑会員（徳山大学）に加え、世界大会開催校の松高会員も予定しています。詳細については、ホームページ等でお知らせします。

（企画研究WG委員長 安孫子 勇一・近畿大学）

## 楨本記念賞WG報告

2015年度から楨本記念WG委員長を拝命しました。よろしくお願ひ致します。本WGは、元大阪経済大学教授の楨本淳子先生が理想とされた秀逸なインターンシップの事例を探し出そうという構想から、初代の加藤委員長、第2代の田中委員長のもとで具体的な検討が進められ、楨本記念賞として選定する

制度として実現しました。この度選定された事例が第16回大会総会会場にて表彰・紹介されました。



### 【最も秀逸な事例】

・京都産業大学  
「キャリア形成支援プログラムにおけるインターンシップ」

### 【秀逸な事例】

- ・亜細亜大学  
「アジア夢カレッジ - キャリア開発中国プログラム」
- ・嘉悦大学 ビジネス創造学部  
「実践の場で学ぶインターンシップ教育」
- ・東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻  
「革新的インターンシップモデルの構築と実践(プラクティカルスクール)」
- ・小樽商科大学 商学部  
「商大性が小樽の活性化について本気で考えるマジプロ」
- ・立命館大学  
「文理連携型コーオプ教育(総合大学モデル)」
- ・北九州市立大学  
「地域創生実習」

### <選定の趣旨>

産学連携教育の柱としてのインターンシップにおいて、優れた取組みがどのように行なわれ、人材が育成されているか、情報収集を行ない、総合的に評価し学会員に還元する。

### <事例報告の視点>

- ・学生がどのように育成されたか。
  - ・育成された（育てた）要因や工夫。
  - ・その取組みから何が生まれ、また派生しているか。
- 同WGではこれまでの議論を踏まえながら、同賞のあり方や秀逸な事例の収集方法などについて引き続き検討を進めていきたいと考えています。
- （楨本記念賞WG委員長 眞鍋 和博・北九州市立大学）

\*\*\*\*\*



## 2015・2016 年度役員

2015 年度総会におきまして、2015・2016 学会年度役員が下記のとおり決まりました。

(五十音順、敬称略)

### 【会長】

吉本 圭一

### 【副会長】

折戸 晴雄、亀野 淳、眞鍋 和博

### 【常任理事】

岡本 信弘、長尾 博暢、薬師丸 正二郎、  
和田 佳子

### 【理事】

安孫子 勇一、牛山 佳菜代、酒井 佳世、  
坂野 慎二、沢田 隆、高橋 哲夫、高橋 秀幸、  
田中 宣秀、那須 幸雄、廣瀬 幸弘、  
古田 克利、山口 圭介

### 【監事】

稲永 由紀、古賀 正博

### 【顧問】

天谷 正、金田 昌司、田村 紀雄、榎本 淳子

### 【名誉会長】

高良 和武

(事務局)

## 2015・2016 年度委員会構成

2015・2016 年度役員選出を受けて、2015・2016 年度委員会等構成が下記のとおり決まりました。

(五十音順、敬称略)

### 【事務局】(◎は事務局長、○は事務局長補佐)

◎岡本 信弘、○潘 秋静、○酒井 佳世、  
○坂巻 文彩

### 【年報編集委員会】(◎は委員長、○は副委員長)

稲永 由紀、牛山 佳菜代、◎亀野 淳、見目 喜重、  
○新谷 康浩、坂野 慎二、長尾 博暢、古田 克利、  
薬師丸 正二郎、岡本 信弘

### 【広報委員会】(◎は委員長、○は副委員長)

○牛山 佳菜代、江藤 智佐子、小林 純、  
○見目 喜重、沢田 隆、廣瀬 幸弘、松高 政、  
山口 圭介、◎和田 佳子

### 【企画研究ワーキンググループ】(◎は委員長、○は副委員長)

◎安孫子 勇一、○折戸 晴雄、亀野 淳、  
古閑 博美、古賀 正博、高橋 秀幸、  
○古田 克利、薬師丸 正二郎、吉本 圭一

### 【榎本記念賞ワーキンググループ】(◎は委員長、○は副委員長)

酒井 佳世、沢田 隆、高橋 哲夫、○田中 宣秀、  
富田 宏治、那須 幸雄、廣瀬 幸弘、◎眞鍋 和博、  
吉本 圭一

【2015 年度高良記念研究助成審査委員会】(◎は委員長)

◎岸本 喜久雄

### 【本部支部連絡会】

安孫子 勇一、◎岡本 信弘、折戸 晴雄、亀野 淳、  
酒井 佳世、高橋 秀幸、根木 良友、古田 克利、  
眞鍋 和博、吉本 圭一

(事務局)

## 支部活動報告

### 【北海道支部】

#### 2014 年度第 2 回研究会を開催しました

2015 年 5 月 31 日(日)に 2014 年度 2 回目となる研究会を札幌国際大学で開催いたしました。支部会員と学会理事の方々を中心に 20 名にご参加いただきました。

今回は特徴あるインターンシップを行う道内中小企業の社長 2 名にご登壇いただき、インターンシップを受け入れるメリット・デメリットや中小企業の現状についてご報告いただきました。その後、中小企業が考えるコンピテンシーについての調査結果を基に、フロアとのディスカッションを行いました。発表者は以下の通りです。

・高岡幸生氏(リージョンズ株式会社 代表取締役)

「中小企業でのインターンシップの現在」

・内池秀敏氏(株式会社内池建設 代表取締役)「社長弟子入りプロジェクト」

・徳井美智代会員(北海道大学)「中小企業の従業者者に求められる『行動能力(コンピテンシー)』に関するアンケート調査」

高岡氏や内池氏は道内大学で実施されている「かばん持ちインターンシップ」に参画されています。これは社長の付き人を体験することで、普段目にすることができない社長の仕事を学生に知ってもらい、企業のあり方やビジネス社会のルール、また起業へのアドバイスへとつながられています。徳井会員の調査による、中小企業における経営者と従業員の事業、企業のビジョンへの意識の違いに関する結果と合わせて、インターンシップがスキルだけでなく、社会とのつながりを深めていると感じられる議論となりました。

#### 小樽商科大学で榎本賞の表彰状を授与しました

9 月 12 日、全国大会席上で榎本記念賞 秀逸なるインターンシップ表彰式が行われましたが、当日出席が叶わなかった小樽商科大学商学部に対し、亀野副会長・和田理事が小樽商科大学を訪問し、和田健夫学長に表彰状を手交いたしました。

(北海道支部 小林 純・札幌国際大学短期大学部)

## 【関東支部】

### 関東支部 2014 年度第 3 回研究会を開催

関東支部では、2015 年 6 月 27 日、中央大学駿河台記念館において、今年度第 3 回目となる研究会を開催致しました。「長期インターンシップ導入に向けての検討」という 2014 年度の統一テーマの総括にあたる今回は、関東支部名誉顧問、工学院大学名誉教授・特定非営利活動法人日本インターンシップ推進協会元会長 横山 修一先生より、「長期インターンシップの課題と展望」と題したご講演をいただいた後、関東支部の中心メンバーとして研究に取り組んでこられた古閑 博美先生（嘉悦大学）、田中 宣秀先生（電気通信大学）、那須 幸雄先生（文教大学）にもご登壇いただき、「長期インターンシップの課題と展望」というテーマでシンポジウムをおこないました。今回も、上信越・東北地区などから多くの会員の参加があり、充実した貴重な学びの機会となりました。

### 関東支部 2015 年度支部総会を開催

2015 年 10 月 3 日、2015 年度の支部総会が玉川大学研究室棟にて開催されました。新年度の役員体制、事業計画、予算案と昨年度の事業報告ならびに決算・監査報告の審議がおこなわれ、すべての議案が承認されました。今年度、関東支部では「企業がインターンシップ生を受け入れるメリットについて」という統一テーマのもと、2 回の研究会を予定しています。第 1 回研究会は、2015 年 11 月 28 日、2016 年の全国大会の会場校でもある目白大学での開催を予定しておりますので、ぜひご参加くださいますようご案内申し上げます（第 2 回研究会の詳細は未定）。今年度も、引き続き支部活動へのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

（関東支部 山口 圭介・玉川大学）

## 【関西支部】

関西支部は、2 月の支部運営委員会での決定に基づき、近畿大学で 9 月 12～13 日に開催された第 16 回大会をサポートしました。当支部内で大会が開催されたのは、4 支部体制が確立して持ち回りとなった 2011 年の第 12 回大会（鳥取大学で開催）以来 2 回目です。具体的には、基調報告会は生協関係者などの招致や大学コンソーシアム大阪の事例報告のかたちで、自由研究発表は司会者や発表者などを出すことで、開催校を支援しました。なお、大会の総会で、支部とゆかりの「楨本記念賞」（楨本顧問は初代支部長）の初めての授与式が行われました。ご尽力いただいた皆様に、支部としても深く感謝しております。

また、上記の決定に基づき、8 月 19～21 日に京都産業大学で開催された WACE（the World Association

for Cooperative & Work-Integrated Education）第 19 回世界大会に、支部代表として廣瀬会員（立命館大学）と五十畑会員（徳山大学）に参加してもらいました。世界大会の報告会を、12 月 4 日（金）の夕方、キャンパスプラザ京都において関西支部研究会として開催する予定です。支部代表の上記 2 会員のほか、世界大会開催校の松高会員にも報告をお願いしています。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。（※詳細は学会 web サイトをご覧ください。）

さらに、立命館大学では、インターンシップや WIL（Work Integrated Learning：職業統合的学習）を通じて、将来、グローバルな社会で活躍できる高度な専門職人材の育成を目指しており、11 月 12 日にシンポジウム『産学国際協働 PBL』が育てる高度理工系人材」をびわこ・くさつキャンパスにて開催しました。

（関西支部長 安孫子 勇一・近畿大学／副支部長 廣瀬 幸弘・立命館大学）

## 【九州支部】

### 九州支部第 15 回研究会および支部総会のご案内

九州支部の研究会も第 15 回目を開催することになりました。今回は、15 周年の節目を迎える「九州インターンシップ推進協議会設立 15 周年記念事業」の一つの分科会として、「地域活性」をテーマに、九州支部との共催という形で研究会を開催することになりました。九州インターンシップ推進協議会は福岡インターンシップ推進協議会として発足し、10 周年を機に活動の場を九州に広げ、地域性を活かした先駆的な取り組みでインターンシップを牽引してきた仲介組織です。地域にとっての次なるステージを模索するイベントです。皆様のご参加をお待ちいたしております。

- ・テーマ：「地域活性」
- ・日 時：2015 年 12 月 4 日（金）
- ・会 場：福岡工業大学（福岡市東区和白 3-10-1）
- ・分科会・九州支部研究会 14：50～16：20（全体プログラム 13：00～18：00、交流会 18：30～20：00）
- ・プログラム①「地域で若手人材を育てる／地域の魅力を発信する UIJ インターンシップーキャリア・スコーププロジェクト／福岡魅力発見インターンシップー」古賀 正博（九州インターンシップ推進協議会・事務局長）
- ・プログラム②「地域創生学群の長期インターンシップによる東日本復興支援」眞鍋 和博（北九州市立大学・教授）
- ・参加費：学会員 1,000 円、非会員 3,000 円

※詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。

（九州支部 江藤 智佐子・久留米大学）

## 事務局からのお知らせ

### 新事務局長挨拶

このたび2015・2016年度の事務局長の任につきました岡本と申します。何分、学会に関しては不慣れなため、よろしくお願ひいたします。事務局を長尾前事務局長から引き継ぎを行っておりますが、未だ不明な点多々あり会員の皆様にはご不便をお掛けするとは思いますが、鋭意努力してまいりますのでよろしくお願ひいたします。不慣れな学会事務局の大任を仰せつかり事務局として運営ができるかどうか不安に思っているところです。総会で承認され事務局を引き継ぎ1か月半ほど経過いたしました。学会事務局の仕事の範囲は非常に多くの仕事があり、歴代事務局の先生方の並々ならぬご努力に私が運営できるものなのか、考えると自らの力量・性格を考えると、たいへんな役目をお引き受けしたというのが、現在の心境となっておりますが、現会員のみならず日々の学会活動を支えしつつ、本学会のさらなる発展に向けて何が必要かを、事務局という立場から考え続けたいと思っております。どうかご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

### 事務局の移転について

上記「2015・2016年度委員会構成について」でご案内しましたとおり、事務局が鳥取大学から九州大学に移りました。新しい事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1  
九州大学人間環境学研究院  
九州大学第三段階教育研究センター内  
Tel : 092-642-4365 Fax : 092-642-4365  
E-mail : jsi-sec@js-internship.jp

※なお、お問い合わせはできる限りメールまたはFAXでお願ひいたします。

### 2015年度会費納入のお願い

諸般の事情によりご案内がたいへん遅くなりましたが、2015年度(2015年7月～2016年6月)分の会費納入をお願ひいたします。詳しくは、本NEWS LETTERに同封しております関係書類をご参照ください。

### 会員情報変更の連絡について

会員の皆様には前号のNEWS LETTERお届け時に「会員情報調査票」をお送りし、ご所属やご住所等の変更をお申し出いただいた分につきましては(ご協力ありがとうございました)、本NEWS LETTER巻末の「所属・住所等変更」欄に記載しております。その後、ご自身の会員情報に変更が生じている方がいらっしゃいましたら、事務局までその旨お届けください。特に、連絡先が不明になりますと、年報、NEWS LETTER、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

(事務局)

## 日本インターンシップ学会 News Letter 2015 No.1

発行日：平成27年11月18日

発行：日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集：日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 和田 佳子

印刷：日本インターンシップ学会事務局 事務局長 岡本 信弘

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-19-1

九州大学人間環境学研究院 九州大学第三段階教育研究センター内

E-mail : jsi-sec@js-internship.jp Tel/Fax : 092-642-4365

Website : <http://www.js-internship.jp/>